



## 平和とくらしを守る北九州市民の会

〒803-0817 小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F  
TEL 093 - 592 - 5000 FAX 093 - 571 - 4346

北九州市民の会

検索

WEB : <http://siminnokai.sakura.ne.jp>  
e-mail : [koe@siminnokai.com](mailto:koe@siminnokai.com)



### 「生保110番」に9件の相談 年金生活者にもコロナと増税の影響じわり

奇数月にあたる7月17日(金)に2ヶ月に1度の「生活保護110番」を実施しました。この日もチラシを見ての電話相談を受けました。今回は1件、直ぐにでも生活保護申請が必要な方がいましたが、その他は「今は年金と貯蓄で何とか生活が来ているが最近、出費もかさみ貯蓄を取り崩している。この先が不安」「年金暮らしで元気が、もし病気になって入院などしても今の年金額ではとても払えない」など、これからの生活を心配する相談が多かったのが特徴です。この間、賃金労働者からは「コロナの影響で仕事が減った。雇止めや解雇にあった」など収入減や収入が絶たれ、生活が成り立たないと言った緊急性の相談が多数寄せられていましたが、今回のように収入は変わらない年金受給者でもコロナの影響でマスク購入など感染予防の出費と消費税増税の影響が、出て来ているのではと感じました。コロナ禍が長く続けば更に生活困窮者が増えてくるのは必死です。「二兎を追うものは一兎をも得ず」・・・社会経済の活性化も重要な課題ですが、まずはコロナを1日でも早く収束させ、国民の健康とくらしを守るための感染拡大防止施策が今一番求められていることではないでしょうか?



### 小倉地区実行委が平和行進集会 歌声も響き、交流

原水爆禁止・平和行進小倉地区実行委員会は、7月20日、夕刻17時から、小倉北区勝山公園内の「長崎の鐘」記念碑前で、今年の平和行進集会を開きました。前日の19日に、大雨の中、戸畑地区からの行進を引き継ぎ、この日20日は、行橋からの行進を市境で引き継ぎ、そこから宣伝車で小倉南区～小倉北区まで宣伝しながら、会場の勝山公園会場に到着し、集会が始まりました。司会は実行委員会事務局長・森さん(民商)。最初に、うたごえサークルによる合唱に続き、主催者挨拶、来賓の市議・県議や、新婦人代表からの挨拶、実行委員会からの報告を行い、最後に、うたごえサークルと参加者による合唱で、集会を盛り上げていました。21日は、市役所前での出発式をし、門司区の境まで宣伝し、門司区実行委員会に引継ぎしました。(小倉支部・野瀬氏より)



### コロナ禍のもと原水爆禁止世界大会の 取り組み始まる

北九州市では

今年も平和の夏がやってきました。これまでは、平和行進、反核平和マラソン、ニコニコペースの平和マラソン、6・9行動など多岐にわたり取り組まれています。今年の2020年原水爆禁止国民平和行進(長崎～広島コース)は、6月28日、長崎市の爆心地公園から広島に向けてスタートしました。出発集会には約130人が参加。今年には行進コースの短縮など、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集会や徒歩による行進を中止。宣伝車で各自治体を回り核兵器廃絶への思いをつないでいます。北九州市内の平和行進は、長崎広島コースと宮崎広島コース、199号線コース(若松)で取り組まれましたが、感染症対策のためこれまでとは違い、基本的に集会や徒歩による行進は行わずに、宣伝車でマイク宣伝等を行い市内を行進しました。写真は、7月21日10時30分、北九州市役所前での広島に向けての出発集会の様です。総勢13人が集まり、野瀬事務局長の司会で出発式を行いました。来賓として、大石元市議員から挨拶を受けた後門司区への引き継ぎ地点手向山公園に向けて出発しました。少しさみしい出発集会でした。宮崎コースの到着集会は、7月20日17時から勝山公園図書館横広場長崎の鐘前で行われ、森小倉地区事務局長の司会で始まり、北九州のうたごえの仲間による「青い空」の合唱の後岩下民商会長が実行委員会代表として挨拶、来賓として浦野新婦人の会小倉北支部長、藤沢市議員が挨拶、閉会の言葉は高瀬県議員が行いました。参加者は、62人でした。(堀田和夫氏FBより)



### 市民の台所「旦過市場前」で「生保&年金」 2つの引き下げ違憲訴訟への支援を訴え

7月18日(土)に小倉北区にある旦過市場前で「生活保護基準引き下げ違憲訴訟、年金引き下げ違憲訴訟を支援する会(いかんよ貧困・福岡)・北九州」で宣伝行動をおこないました。当日は生健会、年金者組合、北九州市社保協から総勢16名が参加。先月に引き続き、署名は行わずビラ配布とスタンディング宣伝としました。高齢者の原告も多数参加しており、熱中症も心配しながらの宣伝行動となりました。この場所で



実施するのは初めてでしたが、緊急事態宣言解除後より人出も増え市場も賑わいが戻りつつある中、ビラもよく受け取ってくれるなど目立った宣伝が出来たのではと思います。次回も新しい場所での宣伝行動を計画したいと思っています。

### 平和ネット19日定例行動

7月19日(日)14時から、小倉北区東映会館前と小倉駅前広場の2か所で平和をあきらめないネットの定例宣伝を取り組むことを実行委員会で確認した。小倉駅前広場は北九州共闘を中心に、東映会館前は憲法共同センターと北九州地区労連、新日本婦人を中心に取り組むことが確認された。私は東映会館前行動に参加するために、13時20分頃家を出発、途中雨がだんだん激しくなり、駐車場につく頃は土砂降り状況、永吉事務局長に連絡すると、小倉駅前広場は屋根があるのでそちらに合流して宣伝行動をやりきるとのこと。さっそく小倉駅前広場に行くと、すでに多くの参加者がスタンディング。署名行動を始めていた。参加者は、60人を超えコロナ禍の中で最高の参加者となった。雨が激しいので署名は集まらないのではと思っていたら、多くの方が署名に応じてくれ、チラシの受け取りもよかった。(堀田和夫氏FBより)



### にこにこペースの平和マラソン無事終了!

7月26日(日)に「第12回にこにこペースの平和マラソン」を開催しました。この平和マラソンは、2009年7月20日に第1回を企画しましたが、雨天により中止しました。それから走り続けて、今回で12回目となりました。第1回から前回までは、門司港駅をスタートして八幡東区の小伊藤山公園までを走って来ましたが、何とか市内の網の目マラソンが出来ないものかと思案してきました。今回、新型コロナウイルス感染対策で、みんなと一緒に走るのがダメなら、それぞれが自由に走ってゴールしてはどうかということで、この企画が生まれました。朝9時に門司港駅と下曾根駅と八幡駅をスタートするコースと、10時半に折尾駅をスタートするコースと四コースを設けました。ゴールは八幡東区の小伊藤山公園です。小伊藤山公園には戦時中、防空壕がありました。1945年8月8日の八幡大空襲で、その防空壕に逃げ込んだ300人余りの市民が、防空壕の中で犠牲になりました。爆弾で焼き尽くされた市内の上空を炎と黒煙が覆いました。翌、8月9日に長崎に投下した原子爆弾を積んだ爆撃機が、小倉の上空に現れ、原子爆弾を落とそうとしましたが、厚い雲と黒煙に覆われて目標が定まらず、長崎に投下されました。戦後、八幡駅前には平和を願い復興を目指して整備されてきました。

ロータリーの真ん中には平和祈念像(女神の像と鳩)があります。そして、日本を



代表する村野藤吾設計の八幡市民会館や美術館、八幡図書館等が創られて「文化の拠点」としてスタートしました。しかし昨年、市民の反対の声を無視して八幡図書館は壊されました。八幡市民会館は残りましたが戦後復興の思いが失われようとしています。この日の八幡駅コースはスタート直後、激しい雨に見舞われましたが、その後、雨もやみ渡船場に到着、渡船で戸畑から若松に渡り洞海湾を一周して小伊藤山公園にゴールしました。このコースを走った神田孝さん・加藤由美子さん・近藤咲子さんの三人は20kmを2時間10分で見事完走しました。

四コースの他にも自宅から小伊藤山公園までオリジナルコースを走ったり、歩いたりしてゴールした方もいました。ゴール後、小伊藤山公園の慰霊塔の前で記念撮影をして解散しました。今回は、スタッフ6人、ランナー13人、ウォーキング1人の合計20人の参加者でした。(福岡ランニングセンター(FRC) ニュースから西村文男さん提供)

### 394回さよなら原発金曜行動

7月31日金曜日、394回目のさよなら原発金曜行動が取り組まれ14人の仲間が参加した。

参加者は少なかったのですが、元気いっぱい1時間の行動を頑張った。

行動の締めは、恒例の高瀬県議の音頭で、「電気は足りてる」「玄海原発の再稼働止めろ!」「化石燃料から自然エネルギーへの転換」など参加者全員でコールした。

空を見ると、きれいな月が私たちの行動を見守っていた。

(堀田和夫氏FBより)



### 競輪場跡地計画「居住ゾーン」で出前講演

7月26日、平和とくらしを守る門司区民の会は、門司区旧競輪場跡地の民間売却問題について、北九州市企画調整局門司区モデルプロジェクト担当課の出前講演を大里体育館集会所において19名の参加で行いました。

土地売却は、公募または指名により複数の者(受託希望者)から、市の目的に合致した企画を提案してもらい、その中から企画・提案能力のある者を選ぶプロポーザル方式で行われました。

今回の旧競輪場跡地の「居住ゾーン」の民間売却は、第一交通グループに決まりましたが、多くの疑問や問題点などが出されました。

#### ①基本計画時の市民説明から大幅変更

居住ゾーンの当初計画はマンション1階等を便利施設に活用するとしていましたが、今回の落札内容は全体敷地の40%が商業施設となるもので、大幅な計画変更であり市民への説明は不十分です。

#### ②選定の採点方法に疑問

この総合評価方式は、内容評価50点、価格評価50点と一見バランスのとれたものにみえますが、「内容評価」では各項目の評価基準が不明です。また「価格評価」では、参加者の中で一番の高値をつけたものを満点にしています。そのため抜群の高値をつければ、相対的に他社の評価は下がり、内容評価での逆転は不可能となります。即ち、この価格評価にも基準となるものが何もないのです。

第一交通グループの「内容評価」は4社中で一番低い、「価格評価」で市の最低希望価格の1.87倍を付けることで大逆転となっています。「豊かな居住の促進」提案など内容の一番劣った計画が、市民の未来に残されることとなります。それでいいのかという問題などの質問が出されました。

市は選定方法や評価等は「有識者会議で決めた」との一点張りの答弁に批判の声が上がりました。また、有識者会議の議事録公開の要求に対して、市は「公開」を約束しました。(小林節馬氏より)



### 核兵器禁止条約早く 原水爆禁止世界大会・国際会議開く コロナ危機解決も国際協力で



「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を一人類と地球の未来のために」をテーマに、原水爆禁止2020年世界大会が2日、国際会議で始まりました。新型コロナウイルスのパンデミック(世界的流行)を受けオンラインで開かれました。

(写真) オンラインで行われた原水爆禁止2020年世界大会国際会議

開会セッションでは世界大会運営委員会の野口邦和代表が主催者報告。コロナ禍は、軍事力による「国家の安全保障」ではなく「人間中心の安全保障」への転換を求めていると強調し、核兵器禁止条約を早期発効させ、各国政府に参加を迫るとともに、核保有・依存国に核軍縮・撤廃義務を迫る世論と共同の発展を呼びかけました。

日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の児玉三智子事務局次長、広島市の被爆者でカナダ在住のサーロー節子さんが被爆体験を語り、カトリック長崎大司教の高見三明さんは核兵器の保有・使用は倫理に反すると強調しました。

第1セッション(世界の平和運動代表)では、米国、英国、ロシア、国際平和ビューロー(IPB)、原水爆禁止日本協議会(日本原水協)の各代表が問題提起。「コロナ対策より核兵器システムにつき込むのは許されない」「各国で禁止条約の署名と批准を求める多数派をつくろう」と議論されました。

第2セッション(アジア・太平洋)では、韓国、ベトナム、インド、日本原水協の各代表が報告。「米中対立のもとアジアを非核地域に」「各国市民の共同で政府に非核化を迫ろう」と語りました。

発表された主催者声明は「核兵器やパンデミックとともに、気候変動や貧困問題など、グローバルな危機を解決するためには、国際的な協力が欠かせません」と指摘。核兵器廃絶を求める「世界的流れはさらに前進を続けている」として、核廃絶を求める国連や各国政府と市民社会との共同を発展させることなどを呼びかけました。

### 7.28企画運営委員会を開催

7月28日(火)、第29回幹事会を準備するための企画運営委員会が生涯学習総合センターで開かれました。幹事会要領は以下のような日程と内容を決定しました。

日程:8月18日(火) 18:30~20:30 ムーブ大セミナー室



#### <タイムスケジュール>

1. 代表委員 開会挨拶
2. 特別報告 石田議員  
コロナ禍のもとでの6月議会と9月議会、市議会選挙に向けて
3. 第28回幹事会以降の活動総括と第29回幹事 会活動方針案
4. 会計報告(決算と予算)
5. 討論と意見発表  
各区民の会より活動報告と意見交換
6. まとめと閉会挨拶

「高齢者福祉乗車券」の実施を求める署名推進活動は、この日(8.18 幹事会)を第2次集約日とし、最終集約は、請願署名受付最終日の9月24日にしました。

「コロナ禍と北九州市の脆弱な地域経済社会」に関する、市民講座、シンポを実施する方針も確認しました。幹事会には多くの皆さんの参加をお願いいたします。

### 核兵器禁止条約 3カ国が批准発効まであと7カ国 ナイジェリア・アイルランド・ニウエ

【ワシントン=池田晋】米国による広島への原爆投下から75年の6日、アフリカのナイジェリア、欧州のアイルランド、南太平洋のニウエの3カ国が核兵器禁止条約の批准書を国連に寄託しました。同条約を批准した国は43カ国となり、発効に必要な50カ国への到達まで残り7カ国となりました。NGOの連合体核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)が同日、オンラインで開いた批准式典では、3カ国の政府代表が発言や声明を寄せ、この日に寄託することによって条約の成立に貢献した被爆者に称賛の意を表すことができると述べました。アイルランドのフリン国連次席大使は「広島と長崎の被爆者をたたえ、犠牲者を追悼する日でもある今日は、批准書の寄託にふさわしい」と表明。ナイジェリアのイテボジェ国連次席大使は、各国政府は貴重な予算を核兵器に投じるのではなく、「人間の健康と福祉に振り向けるべきだ」と強調しました。

核兵器禁止条約は2017年7月に採択され、50カ国が批准して90日後に発効します。(8.8 赤旗しんぶんより)